

平成 29 年第 1 回  
周防大島町総合教育会議 議事録（要点筆記）

1 日 時

平成 29 年 2 月 28 日（火） 午後 3 時 16 分～午後 5 時 10 分

2 場 所

東和総合センター 保健相談室

3 出席委員

椎木町長、西川教育長、珠山委員、長尾委員、中村委員、沖広委員

4 事務局出席者

岡野教育次長、山中総務課長、平原学校教育課長、青山学校教育副課長  
古崎社会教育課長 小泉総務班長

5 欠席者

な し

6 傍聴者

な し

7 協議事項

- (1) 議事録署名委員の指名について
- (2) 中学校統合問題に関する方針案について
- (3) 意見交換
- (4) その他

8 議事の概要

◆協議事項

- (1) 議事録署名委員の指名について  
(議 長) 議事録署名委員として、珠山委員、沖広委員を指名。

- (2) 中学校統合問題に関する方針案について  
(事務局) 説明者 教育長 教育次長

本日開催の教育委員会会議にて、統合方針案として「1案」とすることを決定した旨説明。総合教育会議の在り方及び今後の進め方を説明。

質疑・要望

- (事務局) デメリットとして、段階的統合では後続の統合校に検討期間が生じ統合

されない可能性が残るといった意見がある。その対応策として、2回目の統合期日をあらかじめ定め実行するという案にご意見があったらお願いしたい。

(委員) 平成40年4月に第2段階統合する日にちを入れるという話ですか。

(事務局) 「大島中の統合時期をあらかじめ定め実行する」という事自体が問題だという指摘がある。

(委員) 前回の「中学校1校の統合を目指す」という書き方から、今回は「統合を完了します」という言い方が決定的という指摘がある。

(事務局) 今決定するわけではない。2回目の統合直前には再度議案が出る。それまでには、当然、教育委員会の中での議論があり、議会との協議、議会が話し合い「その時の町長」が提案する。そこが曖昧にならないようにという教育委員会の案。

(事務局) 前回の議会全員協議会で説明した候補の2案から、今回「第1案」を教育委員会会議で選択・決定し、町長も入れた総合教育会議での意見調整が整ったことを再度議会で説明する。

(委員) 東和中学校は、例えばこのまま閉校し、後活用しなければ補助金返還が生じるか。

(事務局) 生じる。

(委員) 安下庄中学校は生じるか。

(事務局) 安下庄中学校は、補助事業完了から10年経過していますので補助金返還は生じない。

(事務局) この問題は大きな要素です。補助金返還してまで統合するのかという問題。実際に補助金返還してまでというのは町民の理解が得られない。

(事務局) 「大島中学校編入の時期を、今決定すべきでない」という意見がある。今の議員に議決をしてくださいというわけではない。今の議員が決めた事にはならない。今回の方針決定が即条例改正というわけではない。

(委員) 跡地利用の意見が多くある。やはり活用する事が大事だと考える。

(事務局) 町民を入れた跡地利用検討委員会の開催を希望するという意見と考える。現在「旧椋野小学校」も「旧屋代小学校」も引き合いがあります。

(委員) 子供を増やす方向を考えるのが一番。教育委員会も一緒になり、とにかく人口を増やす、人口を減らさない。人口の減り具合を少しでも緩和する働きかけが必要。

町長 協議事項2について承認いただけますか。

委員 承認。

### (3) 意見交換

(事務局) 教育次長説明

質疑・要望

(委員) 大島中学校を残すに当たり、学校運営協議会が反対しているから残すという言い方はどうかという意見。

(事務局) 生徒数の推移から見ると、東和中学校や安下庄中学校はやむなしという傾向がある。最終的には、学校運営協議会の意向とアンケートを斟酌してこの案をつくっている。反対が多いからという理由ではない。

(委員) 大島中学校を残す一つの案として、明新小学校と大島中学校を「小中連携の学校」として残すという形をとれば、10年間、大島中学校を残す理由があると考えた。小中連携にすれば、沖浦小学校と三蒲小学校を明新小学校に統合する一つのきっかけにもなる。

(委員) 仮に統合して小中連携をはじめても、三蒲小学校が明新小学校へ統合するのは地元の方の抵抗が強い可能性もある。

(委員) 三蒲小学校は三蒲小学校の意向があるという意見。久賀へ行きたいという意見もある。

(委員) やはり魅力化検討委員会の中に大島中学校の魅力化も入れていく。残っている限り、次の統合に向けて何か施策を講じるべき。

(委員) その施策の結果、平成40年まで経過した時、統合どころではなく、生徒数はキープもしくは増えた。結果、その時の議会で「2段階目の統合」は中止となる。それはいいわけです。逆に言ったらいいこと。

(事務局) 今、現時点での将来の目標を立てる。平成40年、その時点でもう一度正式に見直すという事。

(委員) そうです。前回の反省は「目指す」がために、議論を途中でしなかった。正式に期限を切れれば、本当にやるのかどうかという話を、2～3年前からしないといけない。だから形としてそう決めたという説明がいる。

(委員) 反対に大島中学校エリアの方が、自分たちでもっと生徒を増やす方策を考え、生徒数が増えたらそれは立派なことで一番いい。極端に言えば10年

経過し、これはもう一回「見直し」をしないといけないという話が出る。

(事務局) 具体的に、大島中学校について「実現までの工程・留意事項」に1項目追加し「小中連携教育を実験校として検討する」という記述を入れたらという意見。

(委員) 大島中学校の事だけを記述するのではなく、町内の中学校とすれば両方になる。町内の中学校の魅力化プランを練り、そのプランを各学校運営協議会に説明するという意見。

(事務局) 魅力化検討委員会構成メンバーは、当面は統合に関係ないが、将来統合する方針として、3校統合の場合でも大島中学校を入れます。

(委員) それもいいが、大島中学校だけの魅力化検討委員会もあるといいという意見。

(委員) メンバーは、各学校の5人ばかりではなく、ある程度、中立なプランを持った学識経験者を各学校から1人入れる。魅力的なプランというのは、やはりプランを持ったアイデアのある人が集まって検討すべき。利害のある人が集まると良くない。

(委員) 公募の方も入れると良い。

(委員) 魅力化検討委員会は、それぞれにつくったほうがいい。大島中学校は、将来一つになるとはいえ、2～3年後ではなく10年も後。

(委員) 教育のブランド化を考える。定住も雇用も後々生まれてくるという視点から、専門的に検討する「推進委員会」が必要。

(事務局) 魅力化検討委員会は4校が参加。また、専門家も入れ協議。10年間単独校で残る大島中学校の魅力化も単独で検討。

(事務局) あまり専門的・総合的な事を考えると、ここの議論が結果軽んじられる懸念がある。方針そのものが崩れる。各校の意見の中に、もっと専門的な者を集めて検討すべきという意見がある。

(委員) ここが一番専門的では。

(事務局) ここが一番専門的。立派な構成員メンバーを別に集め、それと同率の何かをつくると、こっちの方針そのものが危うくなる。

(委員) それも含め、検討は魅力化検討委員会ですっかりやるべき。

(事務局) 先に統合する3校が一緒になり具体化を進める。期限があるので利害関係のある人が集まった方が話は進みやすい。

(委員) 具体的に何かをするのはそれでいい。私が考えるのは魅力化。明らかに

アイデアを持っている人でないとだめ。リーダーシップがすごく大事。きちんと信念を持ったリーダーがいないと、魅力的なほうに絶対に行かない。

(事務局) 期限を切られた中で、どういう形が一番いいかというアドバイスをもらえる人を入れる。設定は、議決が仮にあったとして9月以降。建物の案は固まらないといけない。その部分がうまく中におさまればいいと思うが、例えば「塾」「寄宿舍」が要るといのが後になって出てくると間に合わないから期限を切る。

(委員) ぜひともその魅力化というのは十分検討していただいて、魅力のある学校にしていきたい。

(4) その他

特になし